

# 川野辺遺跡発掘調査報告書

2003.3

千早赤阪村教育委員会

## は し が き

大阪府下で唯一の村である千早赤阪村は、楠木正成が山城を築き、幕府軍に応戦した地、南北朝動乱の舞台となった地であり、山城跡、集落跡など中世に属する時期の遺跡等が多く存在しています。

これまでの発掘調査成果の多くが中世に関する成果であります。しかし、今回の調査では小規模ながら、古代の調査成果を得ることができました。とりわけ、墨書き器の出土は初見であり、本村の歴史を理解するうえでは重要な資料の1つとなりうるでしょう。

本報告書はこれらの調査成果について記したもので  
す。

調査の実施及び遺物整理にあたっては、多くの方々の  
ご理解・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも本村の文化財行政にご理解・ご協力いただき  
ますようよろしくお願ひ申し上げます。

平成15年3月

千早赤阪村教育委員会

教育長 大 西 清 和

## 例 言

- 1 本書は、平成14年度に行われた個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査の報告書である。
- 2 調査は、千早赤阪村教育委員会 指導課 主事 和泉大樹 を担当者として、平成14年12月12日に着手し、平成14年12月25日をもって終了した。引き続き遺物整理を行い、平成15年3月31日に完了した。
- 3 本書の執筆・編集は和泉が行った。
- 4 調査の実施及び本書の作成にあたっては次の方々の参加を得た。(順不同・敬称略)  
岩子苑子・谷口夫抄子・福田夏子・周藤光代・前川篤史
- 5 現地調査及び遺物整理において下記の機関・方々にご協力頂きました。記して感謝の意を表します。(順不同・敬称略)  
大阪府教育委員会・大野薰・竹原伸次・山田幸弘・上田睦・新聞義夫・佐々木理
- 6 掲図の方向は国土座標に基づく座標北を示し、標高はT.Pで表示した。
- 7 第2図周辺遺跡分布図の柄山遺跡は現在範囲が拡大しているが、本書では拡大前のものを用いている。

# 目 次

## はしがき

## 例言

## 目次

### 1.はじめに

(1) 調査の契機	1
(2) 調査地周辺の地形	1
(3) 調査地周辺の歴史的環境	1

### 2.調査成果の概要

(1) 調査区の概要	4
(2) 調査区の層序	4
(3) SD01と出土遺物	5

3.まとめ	8
-------	---

# 挿 図 目 次

第1図 千早赤阪村位置図	1
第2図 周辺遺跡分布図	3
第3図 調査区位置図	4
第4図 調査区平面図・断面図及びSD01断面図	5
第5図 SD01出土遺物実測図	6

# 図 版 目 次

図版1 調査区全景等

図版2 SD01出土遺物 墨書き器

図版3 SD01出土遺物

図版4 SD01出土遺物

## 1. はじめに

### (1) 調査の契機

川野辺遺跡範囲内で個人住宅建設が行われるにあたって埋蔵文化財発掘の届出が提出された。申請者立会のもとに平成14年12月12日に確認調査を行った結果、遺物包含層及び遺構が工事掘削深度内で確認されたため発掘調査を実施することとなった。調査は翌日の平成14年12月13日から26日までの期間で行った。

### (2) 調査地周辺の地形

千早赤阪村は大阪府の南東部に位置する。行政区では北・西・南側を河南町・富田林市・河内長野市と、東側を南北に連なる金剛山地を境に奈良県御所市・五條市と接する。その金剛山地からは数本の丘陵状山地が北方向へ延びる。その丘陵状山地に挟まれた河南台地と呼ばれている台地上、千早赤阪村大字川野辺に調査地は位置する。

調査地南側には大和川の支流、石川へ合流する小河川の1つである水越川が流れ、調査地の南東で千早川、足谷川と合流、これら3河川をまとめた千早川は石川へと合流すべく北上を続ける。付近はこれらの河川の浸食作用により階段状の地形、いわゆる河岸段丘が形成されている。このような地形状の制約があり、台地上では必然的に水路が発達した。畑田水路・保止路水路・大島水路などがそれである。

### (3) 調査地周辺の歴史的環境

本村では現在旧石器・繩文・弥生時代の生活痕跡はほとんど確認されていないものの、調査地の南に位置する楠公誕生地遺跡や大廻遺跡などから繩文時代後期磨消繩文の深鉢片や石器類が數点出土している。とりわけ楠公誕生地遺跡からはサヌカイト片が採集できたり、発掘調査時も包含層からサヌカイト片がよく出土し、北東に位置するサヌカイトの産地である二上山山麓の集落として機能した可能性を伺うことが出来る。また、巨視的に周囲を見れば約2km北側に位置する河南町の神山遺跡からは繩文早期の押型文土器・前期の条痕文土器・後期の磨消繩文土器などの上器片が出土している。同じく河南町の寛弘寺古墳群でも落し穴などの遺構が検出されている。

調査地周辺の古墳時代の遺跡は森屋古墳群・御旅所北古墳・御旅所古墳・淨心寺山古墳などがある。調査地北西に位置する森屋古墳群は6基あったとされているが、



第1図 千早赤阪村位置図

いずれの古墳も昭和20年代に道路の設置やみかん山の開墾などにより消滅している。しかし、中村編年II型式1・2段階の脚付有蓋子持壺・台付壺、同3段階の子持器台などが付近から採集されている。御旅所北・御旅所古墳は本村で発掘調査を行った唯一の古墳である。調査は昭和56・57年に行われており、御旅所北古墳からは周溝や縄掛突起をもつ組合式家型石棺2基が確認されている。浄心寺山古墳からはみかん山開墾時に中村編年II型式5段階の杯蓋が採集されている。また、御旅所北・御旅所古墳の北東には双円墳で著名な史跡金山古墳が位置する。

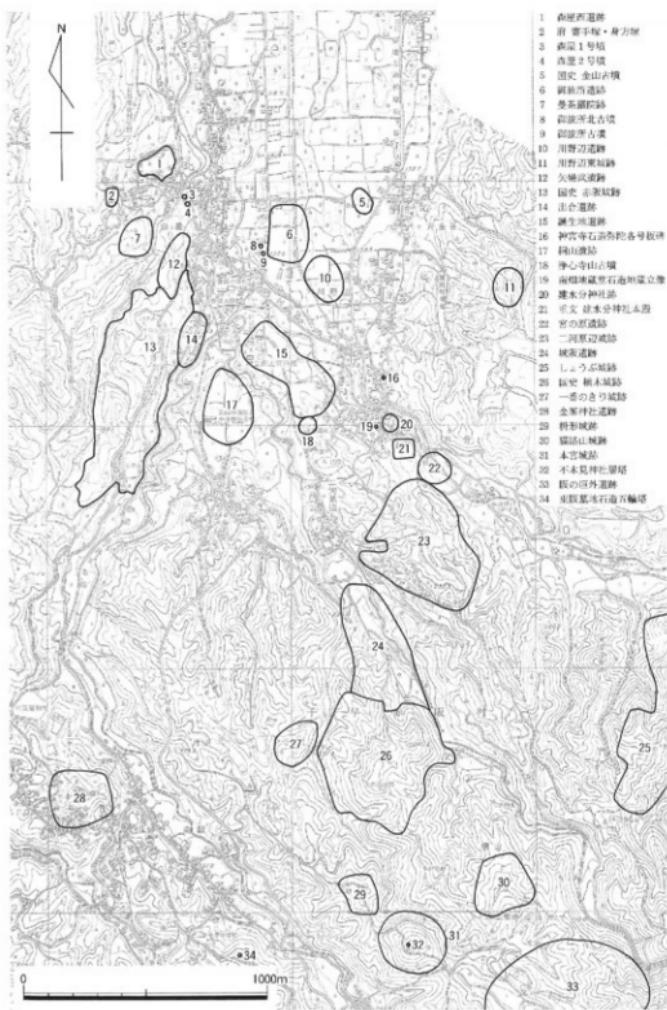
史跡赤阪城跡・森屋西遺跡・御旅所遺跡などからは飛鳥・奈良時代の遺物・遺構を確認している。史跡赤阪城跡からは丘陵の裾部を調査した際に飛鳥I・II・平城段階の土器が出上っている。森屋西遺跡からは詳細は不明であるが、みかん山開墾時に藏骨器と考えられる有蓋の須恵器が採集されている。調査地の北西すぐに位置する御旅所遺跡からは奈良時代の掘立柱建物や溝が確認されている。

本村は南北朝動乱の舞台の1つとなった場所であり、多くの中世の遺跡が存在する。山城跡は昭和9年という比較的早い段階で史跡指定を受けた千早城跡・楠木城跡（上赤坂城跡）・赤坂城跡（下赤坂城跡）をはじめ、二河原辺城跡・本宮城跡・しょうぶ城跡・桥形城跡・猫路山城跡・国見山城跡など多数存在する。館跡と考えられる遺跡としては、楠公誕生地遺跡や桐山遺跡などがある。楠公誕生地遺跡は平成3・4年にかけて「くすのきホール」建設に伴って発掘調査が行われており、14世紀の2重の堀に囲まれた建物跡を確認している。また、付近には「楠公産湯の井戸」の伝承地が残る。桐山遺跡は建武の中興以降の楠木邸跡と伝えられており、「古屋敷」・「花屋敷」・「光明院跡」などの小字名が残り、中世の瓦や土器片が採集されている。他にも森屋西遺跡・矢場武遺跡・曼荼羅院跡・出合遺跡・川野辺遺跡などの中世の遺跡がある。また、矢場武遺跡の周辺には「矢場武」・「甲取」・「城ヶ越」など城跡と関連があると考えられる小字名が残る。

これら押蔵文化財包蔵地・伝承地などの他にも、森屋惣墓にある河南町寛弘寺神山墓地の正和四年の銘のある五輪塔とほぼ同じ時期の石造五輪塔「寄手塚」や南北朝時代のもので、反花基壇上に塔を備え、大和系の製作手法が伺える石造五輪塔「身方塚」などの石造文化財や建水分神社など多くの文化財が点在する。

## 【参考文献】

- 和泉大樹 2000 「千早赤阪村の山城 上赤坂城跡採集遺物」「揖河泉」第30号  
和泉大樹 2001 「千早赤阪村の消滅した古墳」「誕生地遺跡発掘調査概要Ⅲ」  
尾谷雅彦 1996 「御旅所遺跡出土の韓式系土器」「韓式系土器研究VI」  
千早赤阪村教育委員会 1983 「御旅所・御旅所北古墳調査報告書」  
千早赤阪村教育委員会 1995 「誕生地遺跡発掘調査概要Ⅰ」  
千早赤阪村村誌編さん委員会編 1980 「千早赤阪村誌」 千早赤阪村役場  
山田幸弘 1993 「石川流域における灌漑施設の復元的考察に関する覚え書き」  
『さやま誌』 大阪狭山市文化財紀要 第2号



第2図 周辺遺跡分布図 (1/2,000)

## 調査成果の概要

### 2. 調査成果の概要

#### (1) 調査区の概要

川野辺遺跡は平成4年度に発見された埋蔵文化財包蔵地である。発見のきっかけとなった調査区は今回の調査区の約20m東側に位置し、柱穴や溝を検出、奈良時代から室町時代にかけての遺物を確認している。また、調査区の北西すぐ位に位置する御旅所遺跡からは奈良時代の掘立柱建物が検出されており、本村の埋蔵文化財包蔵地は中世の遺構・遺物が大半を占める状況にあるなかで、川野辺遺跡が所在する河南台地上に所在する遺跡群は、本村の古代の遺構・遺物が密に確認される遺跡として認識されている。したがって、今回の調査でもそのことを意識して調査に着手した。

調査区は、現況が畑であった。地形は南側に高く北側へと標高を低くする。検出した遺構は溝・柱穴などであった。調査区東端で多くの土器を埋土に含む溝（SD01と記号化）を確認した。この溝は調査区の東側に北西方向に走る道路とほぼ同方向へ流れる。この溝からはコンテナ2箱分の遺物が出土し、それらの中から9点の墨書き土器を確認した。本村で墨書き土器の出土は初見である。そのため、SD01の溝幅等を確認する目的で調査区を一部拡張したが、SD01東側遺構ラインを検出することはできなかった。遺物が出土した遺構はSD01の他にも数基認められるが、多くは小破片であり時期を確定するには至らなかった。この報告書では本村でははじめての出土である墨書き土器が出土したSD01と出土遺物を主として記述することとする。

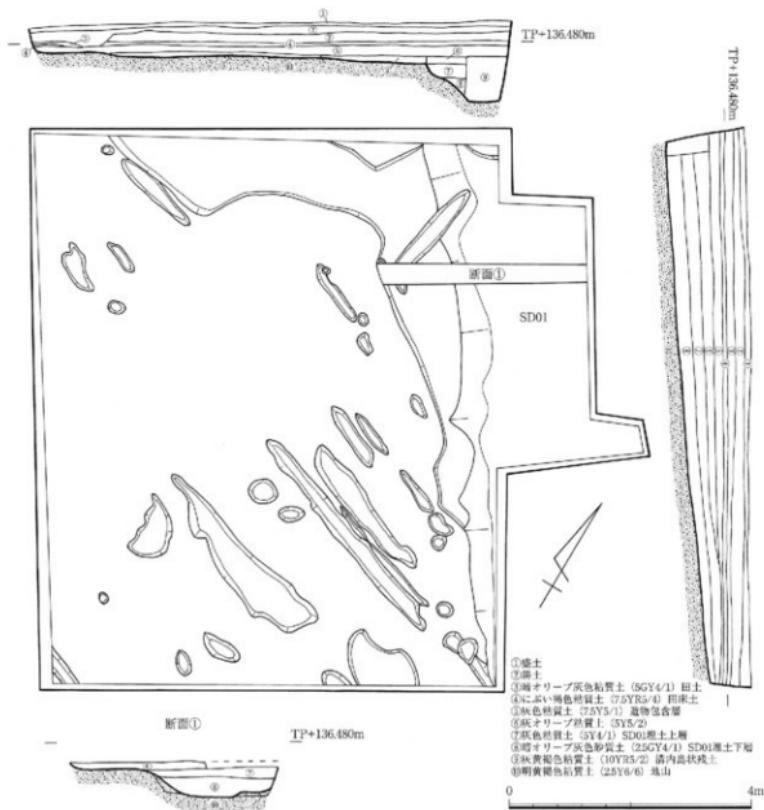
なお、遺構はすべて地山面で検出した。

#### (2) 調査区の層序

当該地は調査以前には畑であったため、盛土の下位に耕作土が堆積する。その下位には水田土・水田床土が水平に堆積し、近年畑耕作以前は水田耕作を営んでいたことが確認できる。これらは調査区全体で一様に確認できる。この下位で遺物包含層である灰色粘質土層が堆積するが、この包含層は先の耕作土・水田土とは異なり、南側で浅く北側でより厚く堆積する。その遺物包含層直下で地山面を検出した。地表面から約60cmの深度での検出であった。なお、地山面は南側に標高が高く北側へとそ



第3図 調査区位置図



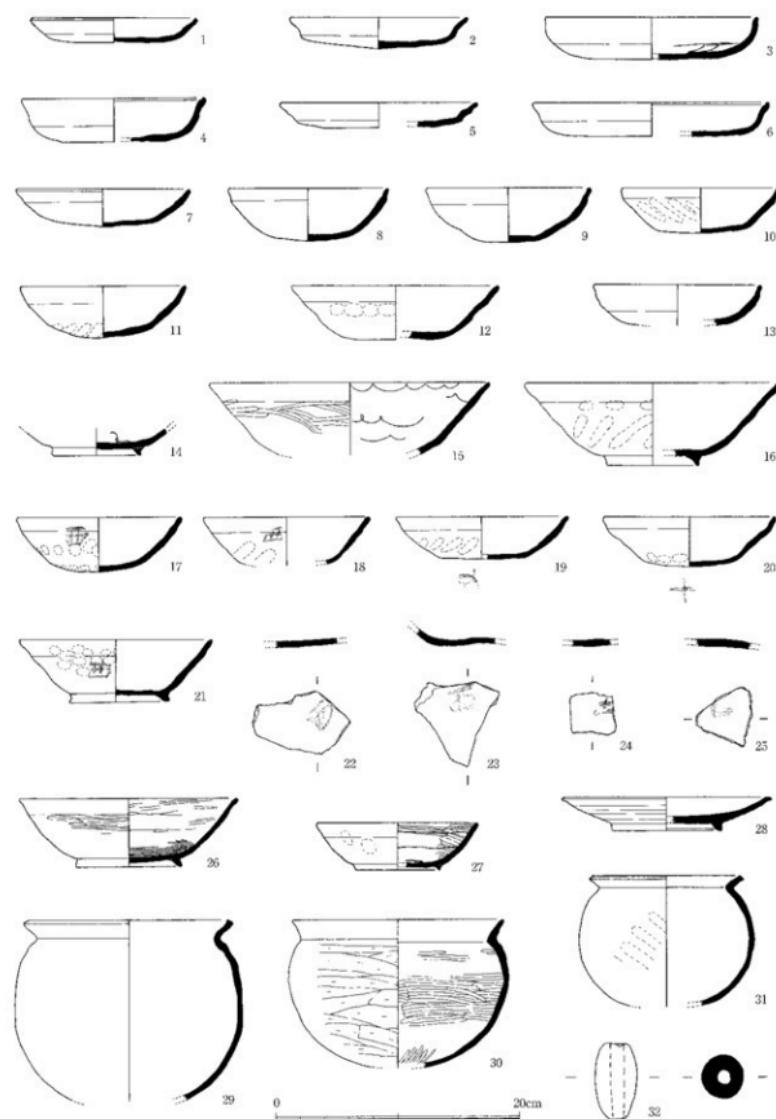
第4図 調査区平面図・断面図及びSD01断面図

れを低くする。

### (3) SD01と出土遺物

調査区東端で検出した。調査区の東側には道路が北西に走るが、検出したSD01はそれとほぼ同方向に流れる。東側の道路には溝が取り付いており、現在周辺の水田に水を供給していることから、検出

調査成果の概要



第5図 SD01出土遺物実測図

したSD01も当時そのような機能を有していた可能性も否定できない。溝の埋土は灰色粘質土層と暗オリーブ灰色砂質土層の上下2層で形成され、遺物は上層から多く出土している。南に高く北に低い地形を呈することや埋土下層の状況からある程度の流水は推定できるが、遺物がほぼ集中して出土している状況や出土遺物の器面状況などから流水に起因する遺物の転動は考えにくく、遺物は投棄されたままの状況であると推測できる。

以下、そのSD01出土遺物について記す。出土遺物は土師器、須恵器、黑色土器、施釉陶器、土製品、製塩土器からなり、その大半を土師器が占める。

#### 【土師器】

##### 皿（1・2・5・6）

1は器高2.0cm、復元口径13.4cmを測る。底部は不調整。2は口縁部に強いナデ調整が施され顯著に外反する。5は器高2.0cm、復元口径16.2cmを測る。底部は指オサエ等凹凸が著しいが、口縁部は指ナデが2段に施される。口縁端部は丸くおさめる。器壁は厚手である。他に比して霧開気の異なる土器である。6は復元口径19.3cmを測る。口縁端部はやや内側に丸くおさめる。

##### 杯（3・4・14～16）

3は暗文が底部内面に認められる。4は口縁部のナデ調整が顯著である。口縁端部は6に似る。14・16は高台が認められる。15は底部が残存していない。外面にはヘラケズリが施され、内面には連弧状に暗文が施される。

##### 椀（7～13）

口縁部は斜め外方へと延びる。口縁端部は顯著に1条のナデ調整が施される。7は白色味が強く、他に比して胎土が異なる。13も比較してやや白色がかったり、口縁端部のナデ調整は3段に施され、器面調整が他と異なる。8～12は南河内地域でよく見られる胎土と思われる。

##### 墨書き土器（17～25）

椀・杯などに文字を記したもののが9点出土した。小破片で器種が明確でないものも含み9点すべてを図化した。このうちの5点には「西」と墨書きされている。他は明確に判読できない。なお、当該遺跡出土の墨書き土器はすべて土師器であった。

##### 壺（29・31）

29は球形のプロポーションを呈する。口縁部は顯著にナデ調整が施され外反し、端部はやや面をもつ。内面は丁寧にナデ調整がなされ、外面には指オサエが残存する。また、外面には煤の付着が認められる。復元口径16.2cmを測る。31も球形のプロポーションを呈するが、29に比して小さい。口縁端部はやや面をもつ。内面はナデ調整、外面には指オサエが残る。

その他、図化していないが高杯脚部、かまとなどが出土している。

#### 【須恵器】

図化していないが、壺の破片が最も多く、その他平瓶などが出土した。

### 【黒色土器】

26は口径17.6cmを測る。内黒焼成。しっかりとした高台が貼り付く底部から外方へ口縁部が延びる。器壁は比較的薄手である。27も同じく内黒焼成の黒色土器であるが、復元口径13.0cmと小さな椀である。底部には低い高台が貼り付く。30は甕である。口縁部はシャープに外方へ延びる。復元口径は17.6cmを測る。

### 【施釉陶器】

綠釉陶器が2点出土した。このうち1点を図化した（28）。

### 【土製品 他】

土鍤が1点出土した（32）。また、図化していないが数点の製塩土器が出土した。

## 3.まとめ

先にも記したようにSD01からは土師器を中心にコンテナ2箱分の土器群が出土した。

土器群は出土状況からほぼまとまった時期であると考えられる。出土土器群には器種として皿が含まれる、土師器甕のプロポーション、黒色土器の高台などから10世紀よりも新しい時期とは考えられず、概して9世紀中頃から9世紀後半頃の時期を考えたい。

これらの出土土器群は器面調整の異なる土師器や黒色土器の小形椀・甕の出土等、付近ではあまり出土例の無いものが確認できることから、複数地域の土器群が含まれると考えられる。このことは、当該遺跡が金剛山地、水越峠を越えて大和側へ向かうルートの南河内側最端の集落地に位置すること、すなわち、この地が交通の要地であったということを示唆しているのであろうか。

また、現在のところ墨書きされた文字の意味は判断できないが、墨書き土器、施釉陶器などの希少な土器が出土していることから、この地がそれらを保有することができる人物の生活空間であった可能性を推測できる。それらを用いる理由をこの地の地形等から察するとするならば、河南台地の灌漑水利に絡む事柄をその候補の1つに挙げることができよう。なお、SD01は西側部分を検出したにとどまり、溝幅すら明確でないなかで、遺構の性格・詳細等を記すことはできないが、出土量に比して墨書き土器の出土が多いことや河南台地等の水田を潤す水配に関連するであろう建水分神社が、当該地南側に座していることなどから推測すれば、祭祀的性格をもっている可能性も否めない。

加えて、出土遺物よりも時期は下がるが『続日本紀』文武天皇の慶雲3年（706）5月15日の項には「河内國石川郡の人、河邊朝臣乙麻呂、白鳩を獻る。綱五疋・絲十絹・布二十端・釐二十口・正稅三百束を賜ふ」と記されており、川野辺の地を検討するには合わせて考える必要があろう。

いずれにせよ、今回のような小規模な調査では遺跡の性格等は判然としないが、調査例が少ない河南台地上で比較的まとまった資料を得たことには違いがなく、今後の河南台地上での調査資料の増加に期待し、報告を結ぶこととする。

# 図 版



調査区全景



SD01



拡張区全景



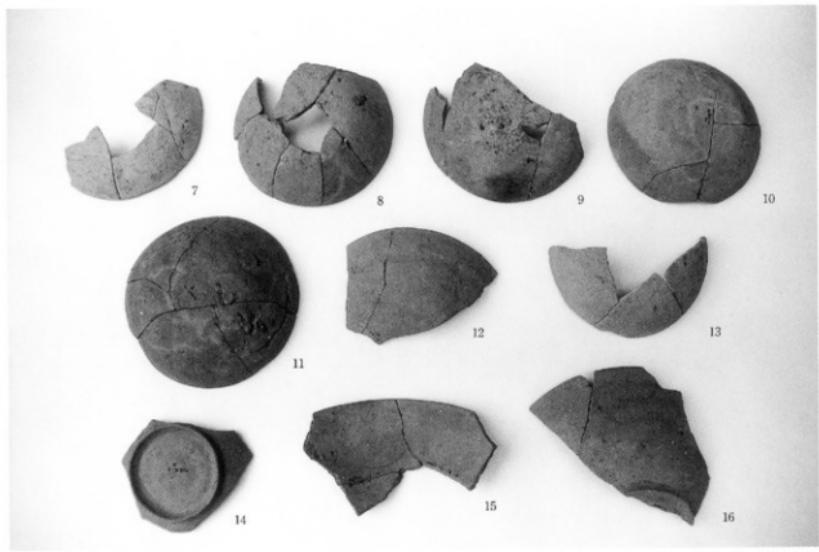
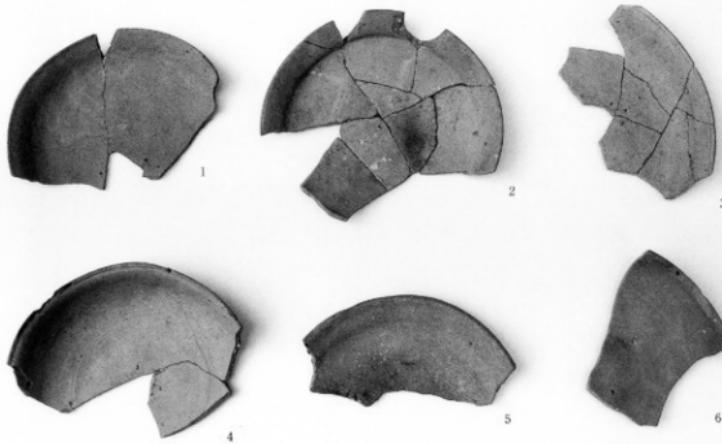
SD01遺物出土状況



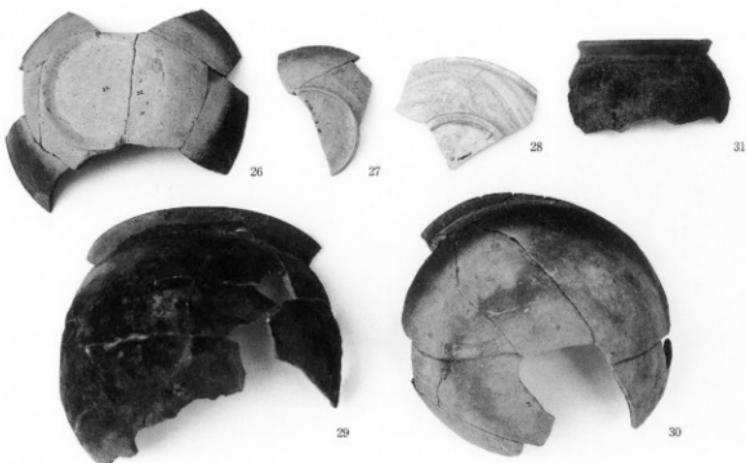
SD01断面



※番号は実測図番号に対応（第5図）



※番号は実測図番号に対応（第5図）



※番号は実測図番号に対応（第5図）

# 報告書抄録

ふりがな	かわのべいせきはくつちようさほうこくしょ							
書名	川野辺遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次数								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集著者名	和泉大樹							
編集機関	千早赤阪村教育委員会							
所在地	〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分 263 番地							
発行年月日	西暦 2003年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東緯 °'〃	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
川野辺遺跡 KNB-02	大阪府 南河内郡 千早赤阪村 大字川野辺	27383		34° 27' 38"	135° 37' 15"	2002.12.12.. ～ 2002.12.25.	80 m <sup>2</sup>	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
川野辺 KNB-02		古代	溝 柱穴	土師器 須恵器 黒色土器 緑釉陶器	他	墨書き出土 (9点)		

川野辺遺跡発掘調査報告書

2003年3月31日

発 行 千早赤阪村教育委員会  
千早赤阪村大字水分263番地  
0721-72-1300  
印 刷 (株)中島弘文堂印刷所

